

感染症名	病原体	潜伏期間	感染経路	症 状	診 断	治療方法	予防方法	感染期間	登園のめやす	保育所において留意すべき事項
RSウイルス感染症	RSウイルス	4～6日 (2～8日)	飛沫感染 接触感染 環境表面でかなり長い時間生存できる。	発熱、鼻汁、 ^{がいそろう} 咳嗽、喘鳴、呼吸困難 ＜合併症＞乳児期早期では細気管支炎、肺炎で入院が必要となる場合が多い。 生涯にわたって感染と発病を繰り返す感染症であるが、特に乳児期の初感染では呼吸状態の悪化によって重症化することが少なくない。	抗原迅速診断キット 鼻汁中からRSウイルス抗原の検出	対症療法 重症例には酸素投与、補液、呼吸管理	ハイリスク児にはRSウイルスに対するモノクロナール抗体(パリビズマブ)を流行期に定期的に注射し、発症予防とあるいは軽症化を図る。	通常3～8日間(乳児では3～4週)	重篤な呼吸器症状が消失し全身状態が良いこと	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年冬季に流行する。9月頃から流行し、初春まで続くと言われてきたが、近年では夏季より流行が始まるようになってきている。 ・非常に感染力が強く、施設内感染に注意が必要。 ・生後6か月未満の児は重症化しやすい。 ・ハイリスク児(早産児、先天性心疾患、慢性肺疾患を有する児)では重症化する。 ・一度の感染では終生免疫を獲得できず再感染する。 ・年長児や成人の感染者は、症状は軽くても感染源となりうる。保育所職員もかぜ症状のある場合には、分泌物の処理に気を付け、手洗いをこまめに行う。 ・特に0・1歳児クラスでは、発症した園児から感染した職員が、自分が感染しているとの自覚がないままに他の園児に感染を広げてしまう可能性が高いと考えられるため、園内で患者が発生している場合は0歳児クラス、1歳児クラスの職員は勤務時間中はマスクの装着を厳守して咳エチケットに務め、また手洗い等の手指衛生を徹底する。
A型肝炎	A型肝炎ウイルス	15～50日 (平均28日)	糞口感染(家族・室内) 食品媒介感染(生の貝類等)	急激な発熱、全身倦怠感、食欲不振、悪心、嘔吐ではじまる。 数日後に解熱するが、3～4日後に黄疸が出現する。 完全に治癒するまでには1～2ヶ月を要することが多い	IgM型HAV抗体の検出	対症療法	A型肝炎ワクチン(16歳以上)濃厚接触者には免疫グロブリンやワクチンを予防的に投与	発症1～2週間前が最も排泄量が多い。	肝機能が正常であること	<ul style="list-style-type: none"> ・集団発生しやすい。 ・低年齢の乳幼児では不顕性感染のまま糞便中にウイルスを排泄していることが多い。 ・黄疸発現後1週間を過ぎれば感染性は低下する。